



11 月 号



(自ら汗する活動 — 河合中)

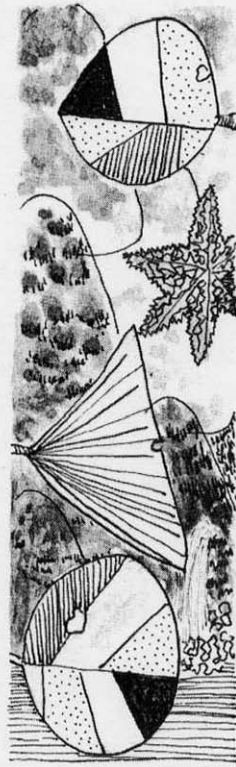
一人一鉢に思いやりの気持ちをかこめ  
丹念に育て上げた秋ナス。  
「やったぞ。」  
ほくの方が大きいぞ。」  
収穫の喜びは、自ら土を手にし、  
汗をした者にだけ与えられる。

施肥、支柱立て、除草、水かけ、  
どれ一つ欠かしても、  
決して実を結んではくれない。  
そして、今、河合中生は自らの手で、  
菊の大輪を咲かせようとしている。

昭和58年11月1日  
編集／発行  
岡崎市教育委員会

今年、台風のない年であったようである。二十三年前になるが、私は、伊勢湾台風の時、名古屋の南区に借家をしていて。あれは、当時としては、予知の節回を越える速度と風速で荒らしまくったものらしい。

南側の一部屋のガラス戸は、勿論、壁も抜かれ、となりの台所の鍋や食器まで一瞬にして外へ吹っ飛んで、家の大半は、天井から雨がストレートに畳を打っていた。



—教育随想—

経 験

丸 井 文 男

た。やがて、台風一過。闇のなかで、ガス水道が出るかと調べたら、まだ、出ていたので、早速「風呂だ」ということ

で入ってみたが、屋根の間から、秋の月光がさわやかに私を照らしてくれていた。まことに、時間と自然の間の絶妙な摂理を感じた次第であった。

名古屋市内だけでも、五、〇〇〇名以上の死者が出た戦後の三大台風の一つで

あったという。

翌年、この経験ですっかりこわくなつて、はだか祭りの国府宮神社のすぐそばに、家を建て移った。ブロック建てにしたり、台風の季節になると、情報を気にする習慣がいまだにとれていない。

その後、あれほどの大型は全くこないが、しかし、経験のない若い世代の人たちは、台風が近づいても、庭先の鉢植や、小物一つかたづけようとしない。

全く気にかけない。経験はおそろしいものであり、また、尊いものである。

幼児期から、子どもは、いろいろな経験を積んで、一つ一つささいなことでも実際に自分でやって、親のリードが適切であれば、おのずから身につけてしまふ。すべて経験のたまものである。

ことに、二歳前後のころからの身の

経験は、親のかかわり方一つによって、苦勞なしに身につく。

このごろ「しつけ」ということは、死語になったといつてよいほど、身につくか否かはつきりしないうちに、崩れてしまふ傾向がある。

子どもも年齢に応じて、小学生、中学生と、家庭以外での経験の学習の内容も変わり、また、学校以外での経験も増えてくる。

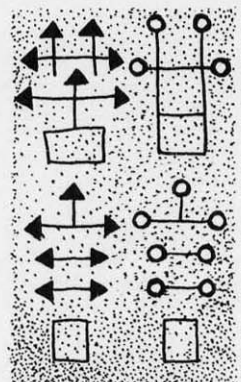
大人に成長する過程では、すべて、経験の積み重ねが、社会人として立派になる基礎であるが、よい経験もあれば、望ましくない経験もある。

問題は、経験の内容で、あろう。さて、大学生の問題に触れると、このごろといっても、十数年前からの傾向であるが、理科系の教官が、異口同音に言われることは、理科系の専攻の学生に、実験のきらいなものが増えていて困っているということである。

物理学・化学・生物学などは、理科系の学問の基礎であるが、高等学校などでも、あまり、実験に身がのらないらしい。わが国の受験競争のはげしさは、社会的風土や、教育制度にも関連することによっていえないが、中学、高校で実験で、実際に自分が手を下して、やってみないと、大学でつまずくし、また、よい教師にも、研究者にもなれない。

「実際に自分でやってみること」をやらせてみることを「経験はすべてへの一歩である。」

(愛知教育大学長)



小学校六年生の思い出

少年自然の家所長 都 築 孝太郎

小学校六年生の頃毎日のように隣のS君と海で遊んだ。欲しがっていた舟を買って貰って毎日が楽しかった。ある日曜日、いつものように順風に帆を孕ませて快的な帆走を楽しんだり、逆風を利用して間切ったりして楽しんでいるうち、つい遠出をし、気がつくと、陽はいつの間にか西に落ちようとしている。「夕風!!」が脳裏をかすめた時はもう遅かった。急いで港に返そうとするのだが、気持ちだけはあせっていても、舟足は目にもみえて落ちる。やがて完全な風になつてしまった。もう漕いで帰るより方法がない。二人力をあわせて櫓を漕いだ。やっと燈台の光が近くに見えるようになった。始めは掛声勇ましく頑張っていたが、もう声もない。黙々としてただ力一杯漕ぐのみ。やつとの思いで燈台の突堤まで漕ぎつけてふと見ると、夕闇の突堤の上に一人の人影。すぐそれが父親だということがわかった。何と言おうかためらった瞬間、「今日はおもしろかったのか。」とい



# 竹細工五十年

竹之内 清氏

徳王神社の西側の道を五十メートルほど南に下がると、伝馬通りと交わる。その東南の角地で、店頭に並べられた竹細工の数々を目にすることができ、そこが屋号をかご安という竹之内さんのお宅である。

お訪ねしたとき、ごさを敷いた仕事場で道具と竹ひごに囲まれ、忙しかごを編んでおられた。父安太郎さんの後を継いで二代目。十七歳のときから竹細工一筋に五十一年間。この道の芸人である。「若い頃には、十人ほど人を使い、桑やみかんを入れる大きなかごを沢山作っていました。ところが、プラスチック

製品が出回るようになって買い手が減り、今は、一人でやっています。最近では、生活必需品というよりも、花籠のような芸術的嗜好品が中心です」と、需要の変化を説明された。

店に飾られたかごを手になれながら、「竹製品は、竹ひごの厚さと、幅によって決まります。この二つの組み合わせをどうするかで、すべてが決まるのです。また、一本の竹ひごに太いところと細いところを作ることによって、一層の深みと味がでています。」

と、中国の竹製品の特徴や、日本の花籠のことを淡々と話してくださいました。作り方は誰に、とお尋ねすると、「竹の割り方、ひごの作り方、かご作りの基本的なことは、父から教えてもらいました。あとは、自分で色々やっておぼえました。手仕事は、自分で学ぶしか仕様が無い。お金や物という財産はそっくりもろうことができません。技術はもろうことができませんから。自分で工夫し勉強して手にするものではないでしようか。」

そばで聞いていた奥さんが、「二人でよそへ行っても、珍しい竹細工がある、そればかり目に入って、わたしなんか全然かまってくれませんでした。それを買ってきて夜遅くまで一人ではらしていることがよくありました。今でも思うようにできないと、何べ

んも壊して作り直すことが多いですよ。でしがたても気に入らないと、壊してしまし。お金もつけに縁のない人です。」

と、にこにこ笑って話された。子どもに接する父親の一面を、「兄弟げんかをして、わたしはがみがみ言いましたが、この人は、怒らずにじっと見守っていました。どういうわけか、それで、いつもおさまってきました。よく我慢できるものだと思われたものでした。」

竹細工一筋の人生をお聞きした。それはわたしたちに、人間の生き方や教育のあり方について、何かを警醒する貴重なものであった。

生年月日 大正4・2・9  
住 所 岡崎市伝馬通り五丁目十六  
職 業 竹細工師(かご安)



つもに変わらぬ平静な言葉……。後年教員になって子供を叱る時の態度と心がまえをこの時教えて貰ったような気がする。

## 「おしん」に思う

元城南小

黒野喜美

NHK朝の連続テレビ小説「おしん」は好評であり、高視聴率が続いている。私もその視聴者の一人で、おしんの生き方に感動をしている。主人公おしんは、ちょうど私の母の年代にあたる。だから母たちの生きてきた苦勞の歴史を物語っているように思うからである。

今の人々にはおしんの生き方は、もはや理解できなくなっているのではない。物があふれ、学校の教育もとやかく言われる時代に、貧しくて、字が覚えたくても、小学校へやってももらえない子供がいたなんて想像もつかない。

原作者橋田さんは「明治、大正、昭和と激動の時代を生き抜いてこられた自分の母たちの人生史を知り、その母たちの生きざまを通して、私たちが見失ったものを見つめ直したかった」と語っている。

豊かさゆえに見失った大切なもの、それは、働き者・つましき・忍耐強さではなからうか。大人も子供も自分本位になり耐えることができなくなった。豊かさの中でそぎ落としてきた、人間としての指標を、今、学校という場を借りても、取り戻したいと思う。



①

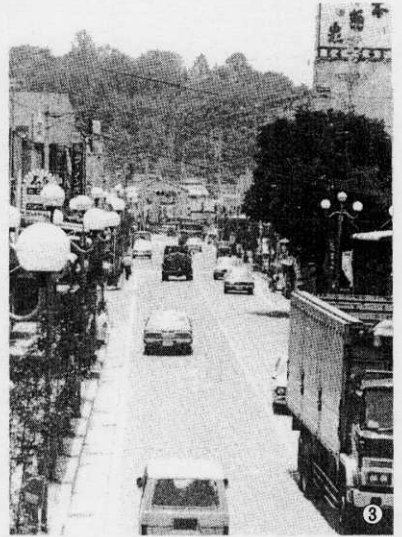


②

# 白田町

## ゆかりの町を訪ねて

### -その2-



③

白田町はかつては佐久郡の中心的な町であった。佐久平の上まゆ集積地としてにぎわった所であるという。八月二十八日現在の人口一六、二〇四人、四、四一二世帯。小海線白田駅から町の中心部まで徒歩約十分。広い道路の両側にはスズラン燈が立ち並ぶ、明るく感じのよい町並である。

町役場では三石教育長さん、高柳助役さんに、町政のこと、教育のことなどについて親しくお話をうかがった。その後、教育長さん自らに案内していただいて、町の中央公民館と白田町文化センター、そして、五陵園のあとに建つ町立田口小学校を訪ねた。

田口小学校はスケートが盛ん。それに冬には片道五キロの田口峠まで、三年生以上が全員完走するという。そこぬけに明るく元気な田口っ子に歓待を受けた。

町の財政を支える産業は稲作だが、酪農や養豚、キクなどの花卉園芸、リンゴ、養蚕など多目的な農業経営をすすめている。薬用人参は島根県に劣らぬ全国的な産地である。その他、町内には工業団地やベット数約一、〇〇〇、鉄筋七階建ての農業厚生連医療センター・佐久病院もある。白田橋から千曲川越しに見る浅間山の姿はとてすばらしかった。

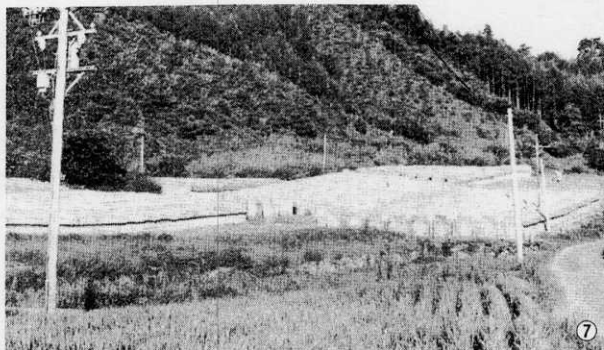


⑤

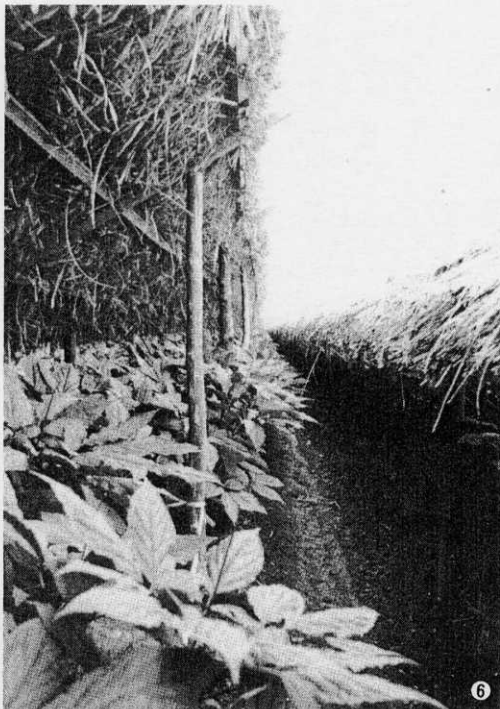


④





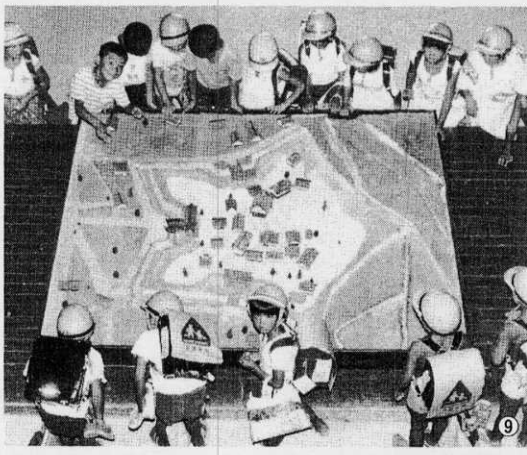
⑦



⑥



⑧



⑨



⑪

- ① 島崎藤村も、ここからの浅間が一番美しいとほめたという。臼田橋から見た浅間と長野県屈指の佐久病院。
- ② 小海線臼田駅。
- ③ 南佐久の中心、明るく活気のある臼田の町並。
- ④ 臼田町役場。町内の四小学校一中学校の鉄筋化が完了してから建てられたという。
- ⑤ 市長室で、中央は高柳助役、右が三石教育長。
- ⑥ 町の特産物、薬用人参。ビニルハウスではない。
- ⑦ 薬用人参は、化学肥料と連作をきらう作りにくい作物。臼田町は全国一栽培農家が多い。
- ⑧ 標高は七二〇メートル。冬期はマイナス十五度まで気温が下がる。水泳とスケートが盛ん。賞状の数々。
- ⑨ 御台所にある郷土資料館と子どもたち。
- ⑩ 中央公民館。公民館活動に身を打ち込んでみえる女性館長にお会いできた。
- ⑪ 田口小学校は五陵郭内にあった。みんな元気でそこぬけに明るい田口っ子たち。



⑩

強く、たくましく!

六南小 大内 五子

「うんこがなかった人!」

おはよう、の後の私の第一声。

毎日、数人は申し分けなさそうに手を上げる。

「おれ、けさして来ただったかなあ?」

ねほけまなこのS君のひとり言。

一年間の育休後、八月から職場復帰した私には、学校も教室も、子供たちもとても新鮮に感じられた。

ところが、九月も末になると、朝、活気のない子供の様子が気になり始めた。初めは、「夏休みボケ?」ほどに考えていたが、どうもそればかりではないらしい



い。生活調査をしてみると、テレビの見過ぎ、塾、習い事の後、遅くから始める学習、遊び不足のために、床に入っても寝つかれないなど、次第に子供の不規則な生活がみえてきた。

一年間の休職のおかげで、私は、三歳の長男には普通の母親であることができた。母親業のむずかしさに悪戦苦闘してみると、子供をとりまく今の環境の悪さには、腹立たしくもなってきた。

買い物に連れて歩けば、氾濫する色とりどりの「甘いお菓子」、保育園の登降園くらしい、歩かせようと思っても危険な車中心の道路事情、少ない公園、遊び場。スイミング・スクールにでも入れて鍛えてもらおうなどと考えても、商業主義の経営や出口で並んで待っている、ジュース・アイスクリームの自動販売機の誘惑……。子供のことなど少しも考えない社会に、母親はもつとしっかりしなければ、と痛感した一年だった。

九月の身体測定。パンツ一枚のピチピチした三年生の子供たちを目の前にしても、どこか「フーッ」とため息をもらしたくなる。腹部のたるみや青白い皮膚、背骨の曲がり。感心するのは、

足の長さばかりとは……。

四十人のクラスにぜんそくの子一人、ひどいアトピー性皮膚炎の子二人、虫歯のある子九十パーセントという生々しい現実を目の前にすると、子供たちを強く、たくましく! 育てるために、今以上の学校・家庭の教育の必要性を痛感する。

## 教育日々



がんばったY子

上地小 内田 一男

サルビアの花が一際鮮やかな校庭の片すみで、授業後、友達と楽しそうに語り合っていたY子に、私は話しかけた。

「学級代表御苦労さんだったね」

「……」

「学級代表から開放されて今はどんな気持ち?」

「うれいんです。大きな荷物を背中から下ろしたようです」

学級代表という責任ある役から開放された彼女にとって、笑

みをいっぱい浮かべて話してくれた顔の表情から、その言葉の真実味がわかるような気がした。

Y子は一年生の夏、四日市市から岡崎市のある小学校に転校してきた。転校当初「ことばのアクセント」の違いを友達に笑われ、その後全然しゃべらなくなつたらしい。

以前の学校に、Y子のようすを聞いてみると次のようである。

一年 会話や返事が十分できなかった。

二年 友達とは全く話さないが、一人で明るく遊べた。

(二年の途中で福岡小学校に転校)

三年 電話では話ができた。行動は積極的になった。

四年 電話で話をする友達が増えてきた。

五年 クラス全員での合唱や呼びかけでは、声は小さいが、できるようになった。

そんな彼女に、福岡小学校では、担任はもちろん、校長先生始め、ほとんどの先生が心配し、指導・助言を続けてくださった。

その結果、少しずつ彼女の心が開かれてきた。

そして、四月、福岡小と岡崎小の一部が合併し、上地小が開校した。彼女の環境が一変した。

六年生になり、新しい友達が出てきた。以前の彼女を知っているのはクラスの半数である。四月学級代表の選挙をしたら、幸か不幸か彼女が選ばれた。選ばれたY子は、当惑した様子だった。

私は、「Y子ちゃんなら、きっとできるよ」と励ました。が、やや不安も残った。

集会での整列時、元気のよいY子の号令がかかる。表情も明るくなり、以前の彼女を知っている先生もびつくりするほどに変わってきた。

「Y子が人前で、話せるようになったことは、宝くじで一千万円が当たったよりうれしい。」

と言われたお母さんの言葉が印象的であった。





おしらせ

# 第11回 教育文化賞

## 杉浦・神尾両氏と三団体に

今年度の教育文化賞は、三回にわたる選考委員会の審査の結果、次の二氏・三団体が受賞することに決まった。授賞式は来る十一月五日(土)矢作体育館で行われる。なお、記念講演は国立東京近代美術館長・安達健二氏の「文化の時代」が予定されている。

(個人)

▽杉浦 豊氏(61歳) 杜寺建築業 岡崎市大西町下西一

・伝統工芸による教育文化への貢献と社会奉仕活動

▽三十五年間に四十か所近くの杜寺仏閣を建築した。また陶芸にも志し、受刑者の陶芸指導に献身し、「上地焼」を世に送り出した。

【寄贈刊行物・資料等】

◆基礎学力の育成(研究集録第三集) 常磐小学校

A5 九七ページ

◆ふれあいのころみ 岩津中変型A4 八〇ページ

◆心のふれあいを深める岩中教育 岩津中学校

B5 六八ページ

◆教員研修必携(58年度) 教職員研修に関する委員会

変型B6 六二ページ

◆研究紀要No.25 岡崎市教委

B5 三〇一ページ

◆天使のうた 附小江村力編 A5 八五ページ

▽細川学区総代会都市美化運動推進協議会、代表長坂智幸氏(総代会長)

■教育委員長に矢田香子氏

岩瀬敬司氏の任期満了に伴い、後任として、後藤朋美氏(岡崎市医師会長)が十月より教育委員に就任された。なお、委員長には矢田香子氏が選出された。

■秦梨小に文部大臣賞

健康安全教育の推進に力を入れている秦梨小学校は、その成果が認められ、去る十月二十八日、京都で開催された全国学校保健研究大会の席上、昭和五十八年度学校保健・学校安全優秀校として文部大臣表彰を受けた。

■8%映画「塗師」全国入選

昭和五十八年度全国自作視聴

〈特選〉

緑化推進委員会賞 電美丘小(入選)

県知事賞

県教育委員会賞

羽根小

常磐小

常磐中

■よい歯の児童生徒

▽岡崎一尾藤匠(岩津小) 小野田清美(勇川小) 三城百寿(竜海中) 佐竹珠美(矢作北中)

▽準岡崎一尾藤志(上地小) 三浦秀夫(矢作北小) 中根礼美(六ツ美北部小) 成瀬仁美(上地小) 加納裕士(葵中) 穴戸秀夫(常磐中) 富田純代(東海中) 村山みどり(六ツ美中)

■県学校環境緑化コンクール

今年度の愛知県学校環境緑化コンクールの結果は次の通り。

## 第16回 岡崎市中学校新人体育大会

(水泳競技の部) 昭和58・9・11

●総合成績

	優勝	2位	3位	4位	5位	6位
男子	矢作	福岡	城北	矢作北	甲山	竜海
女子	矢作	甲山	矢作北	竜海	美川	葵

●個人成績

★印は大会新記録

種目	男子			女子		
	氏名	校名	記録	氏名	校名	記録
100M自	岩附 宣人	矢作北	★1'00"0	清水 美江	甲山	1'08"3
400M自	岩口 裕	岩津	★4'43"0	葉浦 和恵	矢作	5'13"3
100M平	香村 幸雄	甲山	1'19"8	井川 明美	竜海	★1'23"2
100M背	野村 敬之	矢作	★1'10"7	前田満美子	竜海	★1'18"3
100Mバタフライ	鈴木 歩	城北	1'06"3	三尾 早織	附属	★1'11"5
200M個人メドレー	柴田 博	福岡	2'38"9	浅井寿己礼	葵	★2'45"6
400Mメドレーリレー	矢作中学校チーム			4'56"8	矢作北中学校チーム	
400Mリレー	矢作北中学校チーム			4'18"3	矢作中学校チーム	



点

所在地一岡崎市藤川町

# 吉良道道標

この道標は、現在、藤川小学校の正門の西（校庭の一角）に建てられている。高さ一四三センチ、幅二〇センチ角の花崗岩の石塔である。「昭和四十七年十月吉日」の移転の由である。それ以前は、藤川町の西方、東海道と吉良街道との分岐点に建てられていた。東方から行く、と、名鉄の踏み切りを直前にした分岐点である。

東の面に「西尾、平坂、土呂」「吉良街道」、北面に「文化十一年（一八一四）甲戌五月吉日建」、南面に「東都小石川住」と彫られている。

慶長九年（一六〇四）、五街道の制が定められたおり、江戸日本橋から京都までの東海道が開通し、藤川町地内は交通繁華な道筋となった。その後、吉良街道が、藤川を分岐点として通るようになると、藤川の宿場はさらに栄えるようになった。海の幸である魚、特にいわしや塩は、ここを分岐点として、本宿・豊富・千万町・作手・下山方面に運ばれ、逆に、山の幸は、養川・土呂を経て、西尾・平坂・吉良へと運ばれたのである。しかし、吉良街道の中心地「土呂」も今や昔の面影は薄い。

●カ ッ ト 三島小 水鳥好乃

# この本を

- \* 古簡が語る日本の古代 東野 治之 430円
- 岩波書店
- \* よく学び、よく遊び 遠藤 周作 980円
- 小学館
- \* 子供のほめ方叱り方 浜尾 実 980円
- PHP研究所
- \* 学びすぎたか日本人 岩谷 清水 880円
- 講談社
- \* 奇跡の対話教育 磯村 懋 680円
- 光文社
- \* 兄の左手 徳廣 睦子 980円
- 筑摩書房
- \* ひとり旅の手帖 高坂 知英 480円
- 中央公論社
- \* 校内暴力 沖原 豊 880円
- 小学館
- \* ことばの力 外山滋比古 1,000円
- 毎日新聞社
- \* とろいことやっとるな 菅原 直彦 1,100円
- 評論社

「おや。この子にこんな一面が……。」  
 二学期も半ばを過ぎる頃ともなると、今まで気づかなかった子供たちの別な姿が、いろいろな場面で見られるのが楽しくてたまらない。  
 「A君、一年生の子の食器も持ってあげたこと見つけたよ。」日記帳への朱書きに、A君はにっこり。  
 信州佐久平の白田町については恥ずかしいが、今年の市制記念日にゆかりのまちとして、提携するまでまったく知らなかった。白田町は、もう一つの五陵郭「竜岡城」、珍鳥ヤツガシラの生息地、薬用人参の産地、千曲川旅情の詩、スケート日本一の白田中など有名と知り、びっくりするばかりであった。



あしびきの山鳥の尾のしだり尾の、ながながし夜を……。今年もまた、夜の長い季節がやって来た。長い夜を仲間と遊ぶことに夢中になった二十代。子育てと研究に振り回された三十代。教材研究のかたわら本を読みふけた四十代。さて、五十歳にもなれば趣味と憩いに長い夜を過したいと願うのだが……。  
 ずいぶん早くから取りかかったつもりの研究会の原稿なども、結局は、期日ぎりぎりになってしまった。何事も切迫しなければできない自分の性格を、この機会に直したいと思いいきながら、研究会が終わってみると、前と同じのんびりした生活に戻ってしまふ。本当の研究は、研究会後とか……。